【　　】

氏名	吉　宗　真　治
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第３９６４号
学位授与の日付	平成１６年９月３０日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	扁桃核キンドリングラットに対する非定型抗精神病薬の影響
論文審査委員	教授　大塚　頌子　教授　阿部　康二　助教授　吉永　治美

学位論文内容の要旨

完成したラット扁桃核キンドリング発作に対する非定型抗精神病薬の影響について検討した。雄性SDラットにおいて通常の扁桃核キンドリング完成後、全般発作誘発閾値強度刺激による発作に対する各種抗精神病薬前投与の効果を判定した。quetiapine高用量（50 mg/kg）投与により前肢クローヌス潜時の延長、clozapine高用量（50 mg/kg）投与により発作段階の減退と後発射持続時間の短縮、olanzapine高用量（20 mg/kg）投与により後発射持続時間の短縮がみられた。haloperidol、zotepine、risperidone、perospirone投与では有意な変化はなかった。今回の結果からいったん発生した辺縁系由来の発作自体に対してはclozapine、olanzapineは抑制的に働く可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

完成したラット扁桃核キンドリング発作に対する非定型抗精神病薬の影響について検討した研究である。このテーマは、側頭葉てんかん患者の精神病症状の治療に非定型抗精神病薬を使用する場合、薬剤の発作に対する影響を考える上で、臨床的にも重要である。

実験は適切に行われているが、えられた結果は予想に反し、辺縁系由来の発作自体に対してはclozapine、olanzapineは抑制的に働くことが示唆された。この結果は興味深いが、そのメカニズムは不明である。今後発作誘発閾値に対する影響などの検討を含め、さらなる検討が必要と考えられた。

本研究は非定型抗精神病薬の作用に関し、重要な知見をえたものとして価値ある業績である。

よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。

審査概要:

今回の研究は今後各種抗精神病薬のけいれん発作に関する影響を検討する研究の一環としてpreliminaryではあるが、重要なものと考えられ、予備審査では合格と判定した。